

人文社会学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

人文社会学専攻は、歴史・社会・文化・自然・地域などの諸分野を対象とした各専門領域を深めるとともに、学際的に諸問題を探求できる人材を育成します。本専攻では、古代文化学、歴史学、社会情報学、地域環境学、文化メディア学の各コースが有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及ぶ多彩な研究教育を行っています。各コースに共通することとして、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- ・多様な資料・史料を活用し、幅広い知識と視野を習得するための語学・読解能力
- ・変貌する社会・文化に対する批判的な観察力と的確な分析力
- ・他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では特論、演習などを通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

本専攻では、資料・史料の読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、過去から現在に至る人間の諸活動を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視し

ます。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

人文社会学専攻は、歴史学・社会学・地理学などを基盤に、幅広い視野から古代文化・比較史・現代社会・地域環境・メディアについて学ぶことを目的としています。したがって、従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなざしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料・史料や文献を読み解くための語学力
- ・調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・学部での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

コースごとに、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、6年一貫教育プログラム特別選抜を実施します。大学院で学ぶために必要な専門知識や研究を計画し実施する能力を測るために、筆記試験と口述試験を行って選抜します。

(人文社会学専攻 古代文化学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

古代文化学コースは、奈良の地で、古代文化が生まれ育まれた過程やその諸相を、広い視野から、また専門的に深く学ぶことにより、古代文化をめぐる諸課題について、実証的、実践的にアプローチし、その視座を現代へも照射できる人材を育成します。古代をめぐる歴史学、美術史、考古学などの理論とともに、資史料の調査、分析などの高度な知識・技法を身につけた上で、解明する課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む強い意志と頑張りを求めます。

【身につけるべき力】

- ・多様な資史料を駆使し、幅広い知識と視野を習得するための読解能力
- ・古代の文化・社会・地域に対する批判的な観察力と的確な分析力
- ・他者と議論し、知見を深めるための、実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では日本・中国古代史、美術史、考古学、などに関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

古代文化学コースでは、文献・資料（美術・考古）・データの読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、古代文化をめぐる諸問題を理解するため、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士

論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

古代文化学コースは、日本・中国古代史、美術史、考古学など、古代文化をめぐる諸学問が連携し複眼的な視野から、諸問題にアプローチします。上記の諸学問分野の理論を学ぶとともに、文献調査、資料（美術・考古）調査、フィールドワーク等による資史料調査の高度な知識・技法を身につけます。深い専門性を活かしつつ、文化をめぐる多様なテーマを実践的に探求し、研究を進めていきます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 日本・中国古代史、美術史、考古学に関する基礎的知識
- 資史料や文献を読み解くための語学力・分析力
- 資料（美術・考古）調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 独創的で自由な発想
- 学部での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

古代文化学コースで学ぶ上で必要とされる日本・中国古代史、美術史、考古学の基礎学力を、提出書類（研究計画書、あるいは本コースに関連する論文）、および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（日本・中国古代史、美術史、考古学）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本・中国古代史、美術史、考古学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本・中国古代史、美術史、考古学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 歴史学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

歴史学コースは、日本史・東洋史・西洋史の専門領域を深めつつ、幅広い歴史的思考と方法を身につけて、さまざまな地域のアイデンティティについて、あるいは、いろいろな時代の政治、文化、社会のありようについて、現代社会の諸問題や自分の関心を生かしながら、アプローチできる人材を育成します。そのために本コースでは、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- 多様な資料・史料を活用し、幅広い知識と視野を習得するための語学・読解能力
- 変貌する社会に対する批判的な観察力と的確な分析力
- 他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では日本史・東洋史・西洋史の特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

歴史学コースでは、資料・史料の読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、過去から現在に至る人間の諸活動を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに

に、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

歴史学コースは、日本、中国、欧米の生活文化史、社会史、政治史といった多様なテーマを、古文、古記録、画像資料、漢文史料、中国語文献、欧米文献の解読・批判を通して解明します。日本史は主として平安時代以降、東洋史は内陸アジア史を中心に、西洋史は古代から現代にいたるヨーロッパ史を中心に研究を行います。歴史の研究を通して、人文・社会・自然のどの分野でも必要とされる歴史的思考と方法を身につけていきます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 歴史学に関する基礎的知識
- 明確な問題意識と、自前の課題に主体的・積極的に取り組みうる能力
- 古文・漢文や外国語文献を読み解くための語学力
- 資料や史料の調査・分析を行える能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 関連する幅広い分野に対しても熱いまなざしを注げる意欲
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

歴史学コースで学ぶ上で必要とされる日本史・東洋史・西洋史の基礎学力を、筆記試験と口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（日本史・東洋史・西洋史）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、卒業論文などの研究内容、志望動機、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本史・東洋史・西洋史）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、これまでの研究内容、志望動機、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本・中国古代史、美術史、考古学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 社会情報学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

「高度情報化社会」と呼ばれる現代社会では、生活の仕組みや人間関係のありようが大きく変容しつつあります。社会情報学コースでは、こうした「高度情報化社会」の諸相へ様々な視角からアプローチを試みます。具体的に、情報化・高齢化・国際化などの諸問題を捉えるための社会学的な理論と方法を学びます。また、このような社会的諸現象の空間的な展開に注目し、地理的諸過程の理論と方法についても学びます。

【身につけるべき力】

- 多様な資料・情報・データを活用し、幅広い知識と視野を習得するための読解能力
- 変貌する社会に対する批判的な観察力と的確な分析力
- 他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では社会学・地域情報学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

社会情報学コースでは、文献・資料・情報・データの読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、現代社会の諸問題を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指す

とともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試験により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

社会情報学コースは、学士課程で学んだ社会学・地域情報学に関する専門的な知識や社会調査・地域調査の方法論を基盤に、さらに高度な専門性や実践力を身につけることで、現代社会を中心とした諸問題に的確かつ積極的に取り組む学生を望みます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 社会学、地域情報学に関する基礎的知識
- 調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

社会情報学コースで学ぶ上で必要とされる社会学または地域情報学の基礎学力を、筆記試験と口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（社会学または地域情報学）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学または地域情報学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学または地域情報学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 地域環境学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

地域環境学コースは、人文地理学、自然地理学、環境社会学の専門領域を深めるとともに、文化・民族、ジェンダー、環境問題、自然災害などに関わる学際領域の地域研究も視野に入れながら、幅広い地域環境学の構築を目指しています。野外調査などを含む地域調査の実践やそれら調査結果の分析に必要な高度な技術・知識を身につけ、地域環境を多面的に把握する能力や地域が直面している諸問題にアプローチできる能力を養います。自らが主体的・積極的に課題を設定し、その課題に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- ・ 地域環境を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力
- ・ 地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識
- ・ 他者と議論して深めた知見を、正確な情報やデータとともに広く社会に発信する力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では人文地理学・自然地理学・環境社会学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

地域環境学コースでは、野外調査などを含む地域調査の実践や地域に関わる多様な資料・情報・データの分析などの運用などを通して、地域環境を多面的に把握する能力や地域が直面している諸問題を理解して解決策を導き出すための、論理的・応用的で柔軟な思考力を身につけることに力点を置きます。また学際的な視点からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者

と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、地域調査、資料・データ収集、ボランティア活動や留学など、学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

地域環境学コースは、人文地理学、自然地理学、環境社会学から構成され、文化・民族、ジェンダー、環境問題、自然災害などに関わる学際領域の地域研究も視野に入れながら、地域環境を多面的に把握し、地域が直面している諸問題にアプローチします。3つの分野の理論を学ぶとともに、各種の地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法を身につけます。このような専門的な技術・知識を活かしつつ、地域が直面している諸問題を的確に理解し、その解決策を導き出すために多様な人々と協働して研究を進めていくことが望まれます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 人文地理学、自然地理学、環境社会学に関する基礎的知識
- 地域調査を自ら計画・実践する能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

地域環境学コースで学ぶ上で必要とされる人文地理学、自然地理学、環境社会学の基礎学力を、提出書類（研究計画書、あるいは本コースに関連する論文）および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（人文地理学、自然地理学、環境社会学）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうと

する意欲、研究計画、思考力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（人文地理学、自然地理学、環境社会学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、研究計画、思考力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（人文地理学、自然地理学、環境社会）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、研究計画、思考力、日本語または英語によるコミュニケーション能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 文化メディア学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

文化メディア学コースは、文化が生まれるプロセスやメカニズムを、広い視野から、また専門的に深く学ぶことにより、文化をめぐる諸課題に学問的かつ実証的、実践的にアプローチできる人材を育成します。文化をめぐる社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論などの理論とともに、資史料調査、地域調査などの高度な知識・技法を身につけた上で、解明する課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む強い意志と頑張りを求めます。

【身につけるべき力】

- ・多様な資史料、諸データを駆使し、幅広い知識と視野を習得するための語学・読解能力
- ・変貌する文化・社会・地域に対する批判的な観察力と的確な分析力
- ・他者と議論し、知見を深めるための、実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論などに関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

文化メディア学コースでは、文献・資料・情報・データの読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、文化をめぐる諸問題を理解するための学問的に、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文

学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

文化メディア学コースは、社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論など、文化をめぐる諸学問が連携し複眼的な視野から、文化の諸問題にアプローチします。上記の諸学問分野の理論を学ぶとともに、文献調査、インタビュー調査、フィールドワーク等による資史料調査・地域調査の高度な知識・技法を身につけます。深い専門性を活かしつつ、文化をめぐる多様なテーマを実践的に探求し、研究を進めていきます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論に関する基礎的知識
- 資史料や文献を読み解くための語学力・分析力
- 調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 独創的で自由な発想
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

文化メディア学コースで学ぶ上で必要とされる専門科目（社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論）の基礎学力を、提出書類（研究計画書、あるいは本コースに関連する論文）、および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学、文化人類学、考古学、民俗学、地理学、観光論、メディア論）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。